大阪狭山市文化財報告書15

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書7

1997年3月
大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市文化財報告書15

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書7

1997年3月

大阪狭山市教育委員会

序　文

大阪狭山市内には、府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、多くの文化財があります。本年度は、狭山池東岸において須恵器窯跡が新たに１基発掘され、また、前年度に掘りおこされた狭山池東樋遺構の樋管木材の保存処理も順調な経過を示しております。

このような調査と併行しまして、大阪狭山市教育委員会では、平成２年度より継続して行なっております個人住宅建設に先立つ発掘調査を、本年度も国と大阪府の補助金を受けて実施することができました。

本年度は、狭山藩陣屋跡と新規に確認された庄司庵遺跡で発掘調査を行い、貴重な成果を得ることができました。本報告書はこれらの調査結果をまとめたものです。

本書がわずかでも各分野における研究の一助となれば、まさに望外の喜びです。

本年度の調査におきましては、建築主の皆様ならびに調査地周辺の皆様に多くのご協力を賜りました。厚く感謝申し上げます。

また、今後ともの文化財保護に対する御理解と御支援のほどを、よろしくお願い申し上げます。

平成９年３月

大阪狭山市教育委員会

教育長　岡　本　修　一

例　言

1．本書は国庫および府費の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成８年度国庫・府費補助事業として大阪狭山市内で実施した、個人住宅等建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の成果をまとめた概要報告書である。

2．収録した各調査は以下の通りである。

　1．狭山藩陣屋跡　：96－２区・96—３区・96—４区

　2．庄司庵遺跡　　：96－１区

　現地調査は、大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課　植田隆司が担当した。

3．現地調査に当たっては、中原忠明・浦壁　晃をはじめとする諸氏の協力を得た。遺構・遺物の整理作業は調査担当者の他、植山てる江・五福實幸・中尾美津江・陽岡真紀が主としてこれをおこない、また、橋本和美・山崎和子・笹岡裕里子・若宮美佐・柿木宏文をはじめとする諸氏の協力を得た。

　遺構等の写真撮影は担当者が行なった。

4．本書では、遺物の項の執筆を本市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課の市川秀之が、遺構の項の執筆および編集を植田が行なった。

本　文　目　次

（頁）

序　文　　大阪狭山市教育委員会教育長　岡本修一

例　言

はじめに …… 1

1．狭山藩陣屋跡　96—２区 …… 3

　　96—３区 …… 6

　　96—４区 …… 12

2．庄司庵遺跡　96－１区 …… 13

挿図目次

(頁)
第1図　大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布……2
第2図　狭山藩陣屋跡調査区位置図……3
第3図　狭山藩陣屋跡96―2区調査箇所……4
第4図　狭山藩陣屋跡96―2区遺構平断面図……4
第5図　狭山藩陣屋跡96―2区出土遺物……5
第6図　狭山藩陣屋跡96―3区調査箇所……7
第7図　狭山藩陣屋跡96―3区遺構平面図……7
第8図　狭山藩陣屋跡96―3区土層断面図……8
第9図　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物（第1調査区）……9
第10図　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物（第2調査区）……10
第11図　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物（第2調査区）……11
第12図　狭山藩陣屋跡96―4区調査箇所と土層断面図……12
第13図　庄司庵遺跡調査区位置図……13
第14図　庄司庵遺跡付近の小字図……14
第15図　庄司庵遺跡96―1区調査箇所……15
第16図　庄司庵遺跡96―1区土層断面図……16
第17図　庄司庵遺跡96―1区出土遺物(1)……17
第18図　庄司庵遺跡96―1区出土遺物(2)……18

図版目次

図版1　狭山藩陣屋跡96―2区・96―4区
図版2　狭山藩陣屋跡96―3区
図版3　庄司庵遺跡96―1区
図版4　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物(1)
図版5　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物(2)
図版6　狭山藩陣屋跡96―3区出土遺物(3)
図版7　庄司庵遺跡96―1区出土遺物
図版8　庄司庵遺跡96―1区・狭山藩陣屋跡96―2区出土遺物

はじめに

大阪狭山市は、ベッドタウン化された昭和40年代以降に急激な人口増加をみた。近年においては、その頃の勢いは無いとはいえ、住宅開発は引続き盛んである。また、その頃に建設された木造住宅の建替えや増改築が行われる時期にさしかかっていることもあり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘届の提出件数にもほとんど減少の兆しはみられない。この傾向は今後も持続するものと考えられる。

本報告書においては、本年度に大阪狭山市教育委員会が実施した、市内における個人住宅建設等に伴う発掘調査の成果を報告する。ただし、狭山ニュータウンなど既に大規模な造成工事が行われた箇所における住宅の新築・増改築に際しては、本市教育委員会は立会調査を行い、これに対応している。立会調査を行なった結果、遺構・遺物が検出されなかった事例が多数あったが、これらについては報告を省略する。

ところで、大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類は第1図の通りである。本市は読んで字のごとく、西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵に挟まれた地形で、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋から、旧石器時代・縄文時代の打製石器が幾度か採集されている[1]。

弥生時代の遺跡としては、市域南部の高地において、弥生時代後期の集落跡が検出された、茱萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代前期についてもいまだ明らかでないことが多いが、狭山池北方の池尻遺跡において庄内期のものと思われる遺構が確認されているため、沖積面に限定された遺跡の分布が予想される。

古墳時代中期に入ると、泉北丘陵を中心にその造営が展開された陶邑窯跡群が東方へとその域を拡大した結果、本市域西端に相当する陶器山丘陵とその北側の高位段丘の斜面に須恵器窯が数多く築かれた。古墳時代後期の6世紀中葉～後葉になると、陶邑窯跡群は、さらに東方へとその域を拡大し、本市域の至るところの中位段丘崖に窯を築き、須恵器生産を行う。7世紀前葉～中葉になると、窯焼きの燃料である薪や窯を築く斜面が不足したようであり、西暦616年以後に土盛りが行われた狭山池の北堤[2]の外側斜面のような、窯を造営するには不適当な箇所にまで窯を築くようになる[3]。

この狭山池が築かれた主谷の東西に広がる中位段丘上に、東野廃寺・池尻城跡・庄司庵遺跡・狭山神社遺跡・狭山藩陣屋跡などの古代・中世・近世の諸遺跡が成立している。

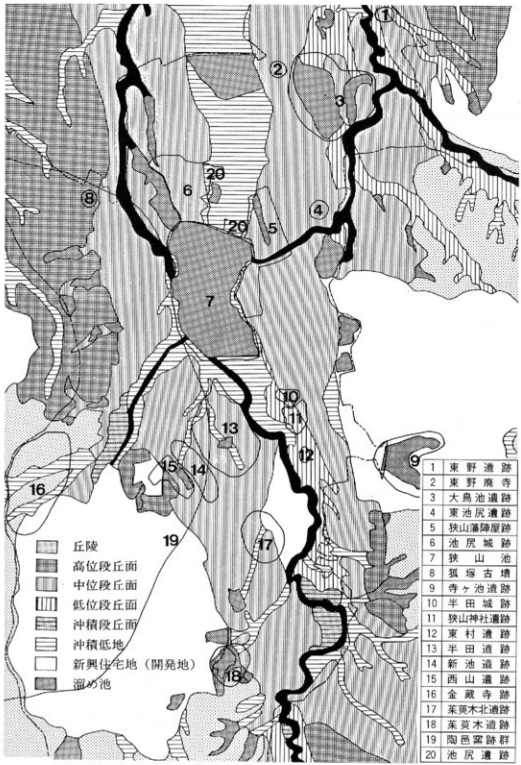
註記

1）西野良政氏・上野正和氏・西岡勝彦氏の採集資料などがある。
　上野正和「狭山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狭山市文化財紀要』創刊号、1992

2）1994年～1995年の調査で東樋下層遺構が検出され、奈良国立文化財研究所 光谷拓実氏の調査により、

その材に用いられているコウヤマキの伐採年代がA.D.616年と判明した。この東樋は、狭山池を堰止める北堤の最下層の盛土によって埋設されている。ゆえに、狭山池築造当初の堤と考えられる最下層の盛土はA.D.616年以後に施工されたものと判断される。

3）狭山池調査事務所『狭山池調査事務所平成5年度調査報告書』1994年



第1図　大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布

1．狭山藩陣屋跡

狭山藩陣屋跡は、狭山池東側の中位段丘上に立地している近世の城館跡である。豊臣秀吉によって小田原城を落とされた戦国大名北条氏の末裔が、近世初期にこの地に陣屋を開き、以後明治維新にいたるまでの間、一貫して陣屋が営まれていた。

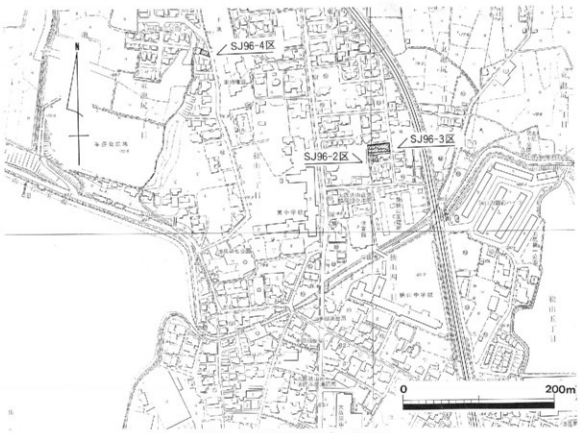
明治以降、狭山藩陣屋跡域内における景観は大きく変化し、現在ではほぼ全体が住宅地となっている。現在では、既存住宅の建替えや、小規模な再開発がほぼコンスタントに実施されているため、陣屋跡域内における埋蔵文化財発掘調査件数は減少の兆しをみせない。

こうした小規模な発掘調査の積み重ねによって、少しずつではあるものの、狭山藩の陣屋の構成が明瞭なものとなりつつある。

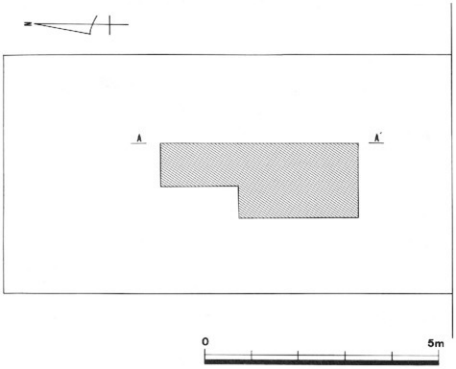
狭山藩陣屋跡96―2区発掘調査報告

狭山藩陣屋跡96―2区は、大阪狭山市狭山四丁目2449番地5号に所在する。明治初期の屋敷配置を描いている『狭山藩陣屋跡上屋敷図』では、「牧山」と記された屋敷地の一部に相当するものと思われる。なお、本調査区を96―2区と呼称して、96―1区と呼称しないのは、5月に旧東幼稚園跡地で学術発掘調査を行い、その調査区を96―1区と称しているので、無用な混乱を避けたいがためである。ご了承いただきたい。

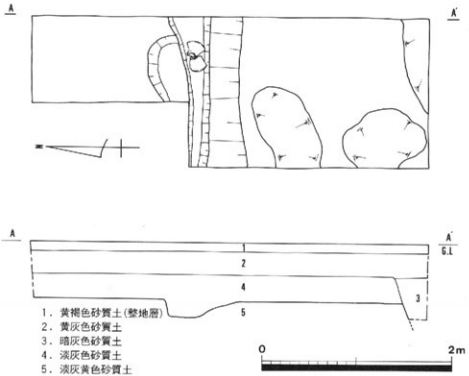
96―2区の調査は、用地のほぼ中央で南北4.1m・東西1.6mの調査区を設定して、平成8年9月18日から同月30日までおこなった。



第2図　狭山藩陣屋跡調査区位置図



第３図　狭山藩陣屋跡96―２区調査箇所



第４図　狭山藩陣屋跡96―２区遺構平断面図

(1) 遺構と層序

土層断面を観察すると、既存していた住宅にともなう整地層の厚さは10cmで、その下層に黄灰色砂質土層・淡灰色砂質土層がある。遺構は、地表下約60cmであらわれる淡灰黄色砂質土層上面から掘り込まれていた。

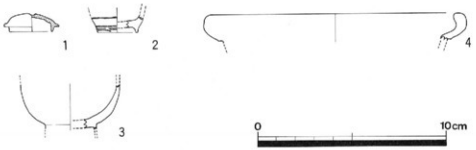
遺構として確認できるのは、調査区中央付近で東西にのびる溝1条とこれに切られたピットである。溝は最大幅78cm・深さ20cmを測る。

遺構の時期は遺物から近世後期以後と考えられる。

(2) 遺　　物

遺物は3の碗が溝の底から出土し、他の遺物は遺構直上の淡灰色砂質土中に包含されていた。

1は小型容器の蓋。茶褐色に焼きしめられているが、産地は不詳。口径3.6cm。器高1.6cm。2は肥前系磁器。底部のみ残存し器種も不詳。3は瀬戸美濃系陶器の碗。底部のみ残存。高台径4.1cm。4は鉄釉陶器。口縁部の一部が残存する。瓶の口縁部か。96—2区の遺物は全体的に残存状態が悪く、生産時期の特定も困難であるが、概ね近世後期の所産と考えられる。



第5図　狭山藩陣屋跡96—2区出土遺物

狭山藩陣屋跡96―3区発掘調査報告

狭山藩陣屋跡96―3区は、96―2区に北接する東西に長い屋敷地である。大阪狭山市狭山四丁目2451番地1号・2号に所在する。『狭山藩陣屋跡上屋敷図』では、「朝比奈謹吾」と記された屋敷地に相当する。

調査は、用地の東西端で第6図のように調査区を設定して実施した。東端の調査区は屋敷地と道との境界を確認することを主眼に設定したもので、第1調査区と呼称している。第1調査区の南北長は7.3m、東西長は3.7mで、幅0.7mのトレンチ状の調査区とした。西側の第2調査区は南北1.7m・東西8.1mの範囲で掘削をおこなった。調査期間は平成8年10月14日～同年10月30日である。

(1) 遺構と層序

第1調査区では、屋敷地と道を画する塀に伴うであろう、幅30cm・深さ28cmの南北にのびる溝1条を検出した（溝2）。また、土坑を2箇所で検出した。北側の土坑を土坑1、南側のそれを土坑2と呼称する。

第2調査区では、幅22cm・深さ5cmの南北にのびる溝（溝1）を1条と土坑を2検出した。土坑のひとつは径1.2m・深さ1mを測り、埋甕の痕跡か井戸を推定させる。これを土坑4と呼称する。第2調査区東側の径0.9m・深さ30cmを測る浅い土坑を土坑3と呼称する。

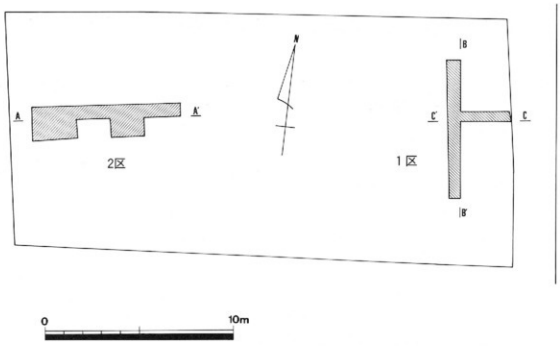
今回検出した遺構は、淡黄色シルト層上面から掘り込まれており、上下2層存在する陣屋跡の遺構面のうち、天明の大火以後に形成された上層遺構面に相当するものと思われる。ゆえに、今回調査を施さなかった下層遺構については、再度調査を実施する必要がある。

この遺構面で生活がなされた時期は、概ね近世後期～末期と思われる。

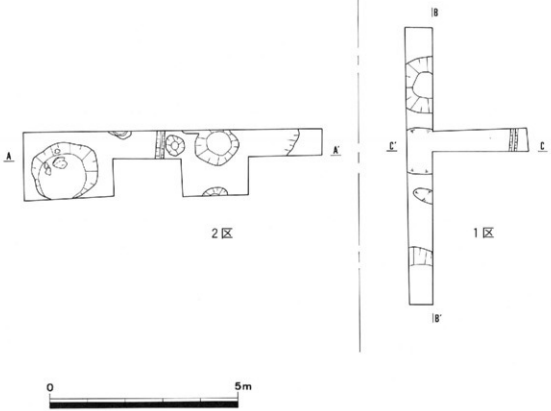
(2) 遺　　物

出土遺物は、第1調査区では、土坑1から碗・皿、土坑2から土人形・碗・皿が出土した。遺構直上の淡黄灰色シルト層からは、小瓶・大鉢・用途不明土器が出土した。第2調査区では、溝1から碗・焼塩壺が、土坑3から碗・焙烙・瓶が、土坑4から碗・皿・深皿・津壺が出土した。遺構直上層の淡黄褐色砂質土層中からすり鉢・碗が出土した。

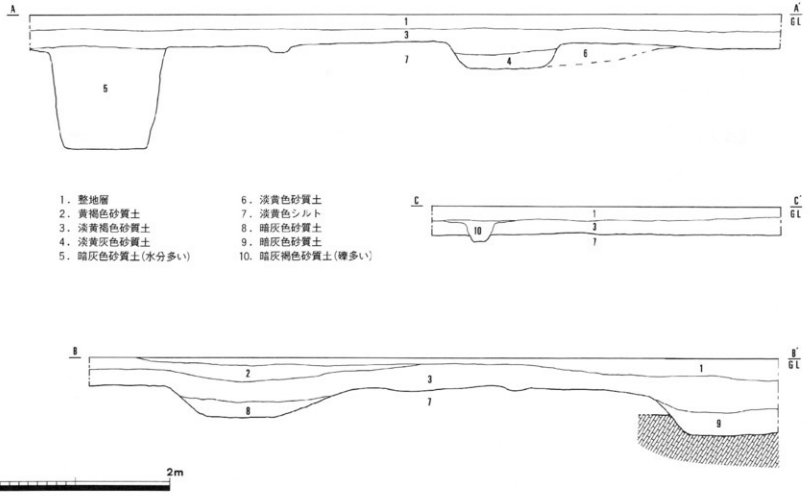
1は土人形。最大幅5.0cm、高さ5.5cm。ほこらを模したもので左右に狛犬を配す。底部には先細りの孔が開いている。孔の径は0.8cm。2は肥前系磁器の小瓶。上半分は欠損。染付で草花文様を描く。高台径3.0cm。3は肥前系磁器の碗。底部のみ残存。高台径3.5cm。4は京焼陶器。底部欠損。全体に灰釉を施し、赤釉、緑釉で草葉、井桁模様を描く。口径9.6cm。5は肥前系磁器の碗。赤絵で斜め格子の上に同心円を描く。口径11.4cm。6は瀬戸美濃系陶器の皿。高台付近のみが残存している。内面には緑色釉、鉄釉で草花模様を描く。見込みには青色釉で



第6図　狭山藩陣屋跡96―3区調査箇所

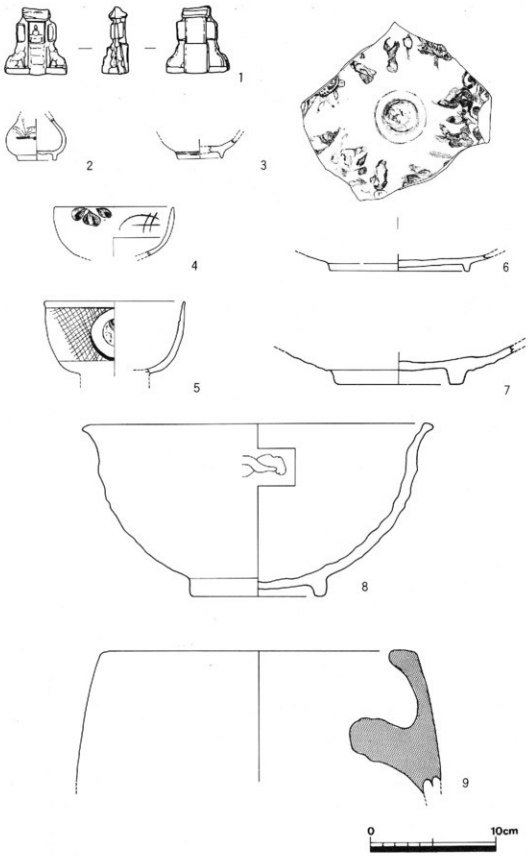


第7図　狭山藩陣屋跡96―3区遺構平面図

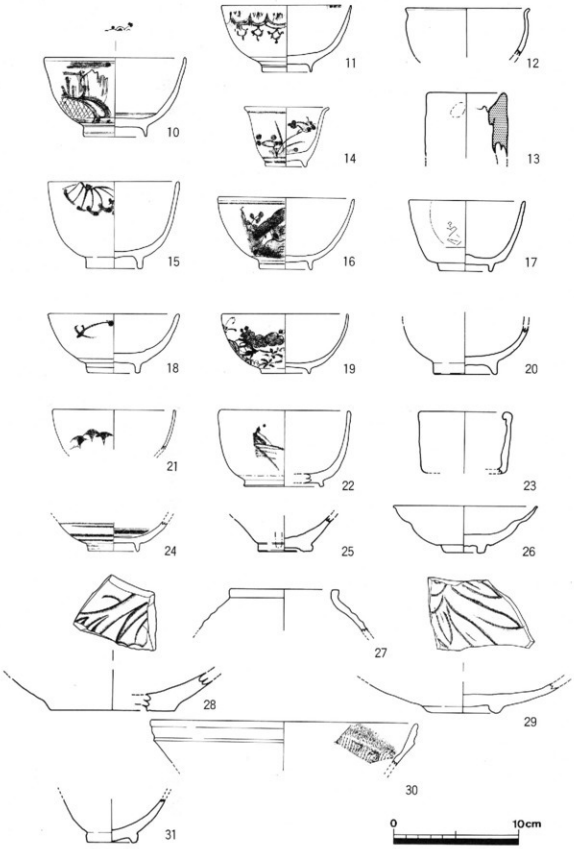


1．整地層
2．黄褐色砂質土
3．淡黄褐色砂質土
4．淡黄灰色砂質土
5．暗灰色砂質土(水分多い)
6．淡黄色砂質土
7．淡黄色シルト
8．暗灰色砂質土
9．暗灰色砂質土
10．暗灰褐色砂質土(礫多い)

第8図　狭山藩陣屋跡96―3区土層断面図



第9図　狭山潜陣屋跡96－3区出土遺物（第1調査区）

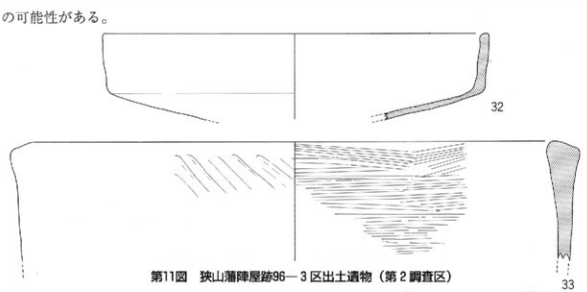


第10図　狭山瀬陣屋跡96―3区出土遺物（第2調査区）

円、その周囲に鉄釉でもう一重の円を描く。7は肥前系陶器の皿。底部のみ残存する。見込み部に白釉で円を描く。8は瀬戸美濃系陶器の大鉢。口径27.0cm。器高13.9cm。外面に耳を持つ。全体に灰釉を施す。9は土師質の容器で口縁部の一部のみが残存している。用途は不明であるが、内面に突起を持つ。口径25.4cm。10は染め付けの碗。胎土が粗く肥前系とは考えられない。在地の産か。口径11.4cm。器高6.4cm。11は肥前系磁器の碗。口縁部に呉須で連鎖文様を描く。12は磁器の端反型の碗。産地は不詳。全体に灰釉を施す。口径9.8cm。13は焼塩壺。口縁部のみ残存。口径6.0cm。刻印は残存せず。15は肥前系磁器の碗。口径10.5cm。器高4.7cm。全体に透明釉を施し、口縁部外面に呉須で菊花文様を描く。16は肥前系磁器の碗。口縁10.8cm、器高5.8cm。外面に大きく花草文を描く。17は瀬戸美濃系陶器の碗。外面に白釉、内面に透明釉を施し、外面には呉須で文様を描くが欠損して文様の種類は不明。高台部のみ無釉。口径9.4cm、器高5.7cm。18は肥前系磁器の碗。口径10.6cm、器高4.2cm。呉須で草花文を描く。19は肥前系磁器の丸形碗。口径9.8cm。器高3.8cm。外面に呉須で草花文を描く。20は瀬戸美濃系陶器。全体に灰釉を施す。内外とも無文。

21は肥前系磁器の碗。口径に呉須で雁文様を描く。口径10.0cm。底部を欠損。22は瀬戸美濃系陶器の碗。下絵の上から灰釉を施す。文様部は大半が欠損し、種別は不明。底部は無釉。23は陶器の筒型碗。青磁釉を外面に施す。口径7.6cm。24は肥前系陶器の碗。底部のみ残存。25も底部のみ残存。内面のみ白釉を施す。外面残存部は露胎。26は瀬戸美濃系陶器の深皿。口径11.6cm、器高3.8cm。全体に灰釉を施すが、内面見込み、外面底部のみ露胎。27は陶器の津壺。口縁部のみ残存。丹波焼き。口径8.8cm。28は青磁皿。底部のみが残存。内面の文様は蓮花文。29も青磁皿。底部のみが僅かに残存。内面に蓮花文。30は小型のすり鉢。備前焼。口縁部のみ残存。口径21.4cm。31は肥前系磁器の碗。底部のみ残存。全体に灰釉を施す。32は土師質の焙烙。口縁30.8cm。33は堺産の瓶。内面にハケ目、外面ケズリ。口縁端部は平たく水平。口径42cm。

96—3区の遺物は概ね19世紀の所産と思われる。全体的には肥前系の磁器、陶器が多く、瀬戸美濃系、京都系のものは少ない。調理用容器に備前産のものが若干みられる。焙烙は在地産の可能性がある。



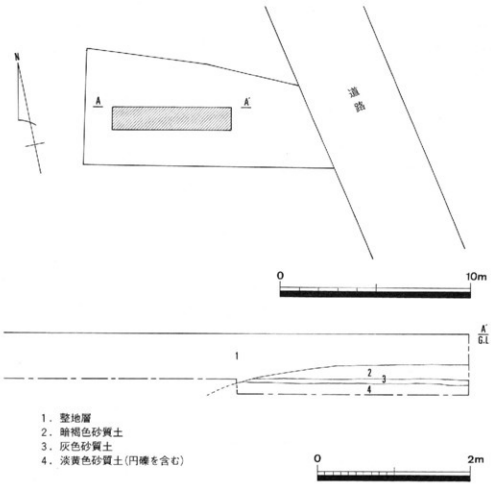
第11図　狭山藩陣屋跡96—3区出土遺物（第2調査区）

狭山藩陣屋跡96―4区発掘調査報告

狭山藩陣屋跡96―4区は、大阪狭山市狭山三丁目2559番地15号に所在する。

調査は、第12図の箇所に、南北 1.2m・東西 6.3mの調査区を設定して、平成９年１月21日から同月29日までおこなった。結果、第12図に示すとおり、基礎深度を超える地表下約0.8mまで掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めたが、これを確認することはできなかった。

調査区の中央から西側では、分厚い整地層で埋められており、調査区内で地山面は確認できなかった。当該地点は、狭山池東岸から北へのびている中位段丘崖の上端に位置しているものと思われる。



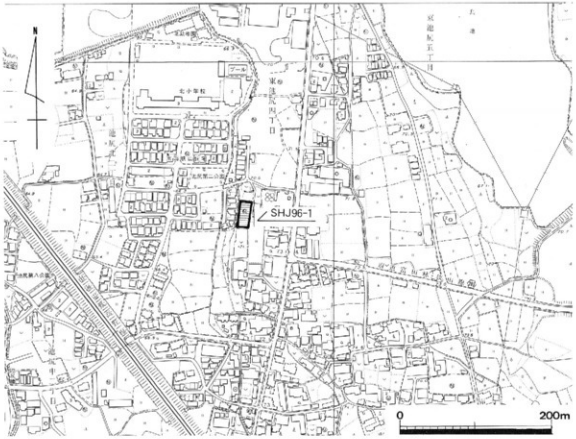
第12図　狭山藩陣屋跡96―４区調査箇所と土層断面図

2．庄司庵遺跡

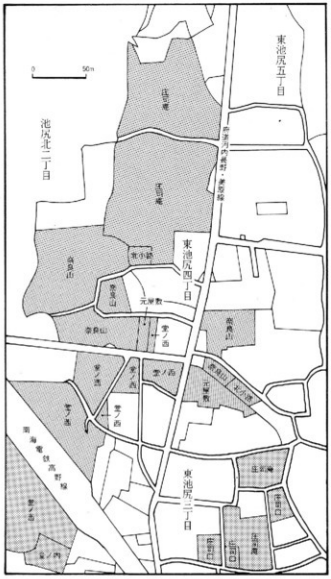
東池尻四丁目南端と池尻中二丁目付近、南海電鉄高野線以北の府道河内長野美原線沿いには、「庄司庵」という小字名が4ヶ所、「庄司口」という小字名も3ヶ所確認されている[1]。上田宏範氏は、『狭山の地名五十話』の中で、庄司庵・庄司口・元屋敷・堂ノ西・奈良山・門田・丈尺といった地名を残すこのあたり一帯を、中世に営まれていた興福寺の荘園「狭山荘」を管理した荘所跡と推定されている。

大阪狭山市域における中世の遺構・遺物を出土する遺跡は、池尻城跡・池尻遺跡・狭山池中樋遺構しか現在までに確認されておらず、その範囲は非常に限定的なものとなっている。このため、地名に基づく上田氏の説は、その推定地が、狭山藩陣屋跡大手筋から東野廃寺を結ぶ従来からの主要道沿いにあって良所を占めることから非常に興味深いものである。

今回、以下に報告する調査地において、包含層中から中世土器が出土し、新規遺跡の発見となった。周囲の調査もまだ実施されていないため、その遺跡の分布範囲を正確に特定することは現段階では不可能である。よって、とりあえず96—1区のみを「庄司庵遺跡」と称する埋蔵文化財包蔵地として認識することとし、今後の機会を捉えて庄司庵遺跡の範囲を確定していきたいと考える。



第13図　庄司庵遺跡調査区位置図



第14図　庄司廃遺跡付近の小字図

庄司庵遺跡96—１区発掘調査報告

庄司庵遺跡96—１区は、大阪狭山市東池尻四丁目1329番地１号・２号と1330番地に所在する。

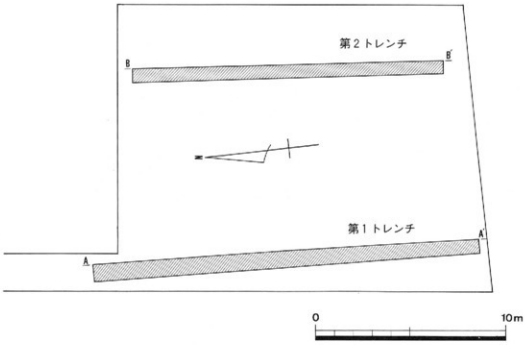
当該地は狭山池東岸から太満池東岸へとのびる中位段丘崖の上端に立地する。平成７年３月に発掘調査を実施した陶邑窯跡群94—４区は、当該地の南西で接する。『狭山町史』第１巻・本文編において、45号窯・46号窯の２基の須恵器窯跡が、庄司庵遺跡96—１区西端の崖面で確認されており、『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』でもこの２基の窯跡をドットしている。

このため、今回の調査は須恵器窯跡の窯体が遺存していることを念頭において開始することとした。

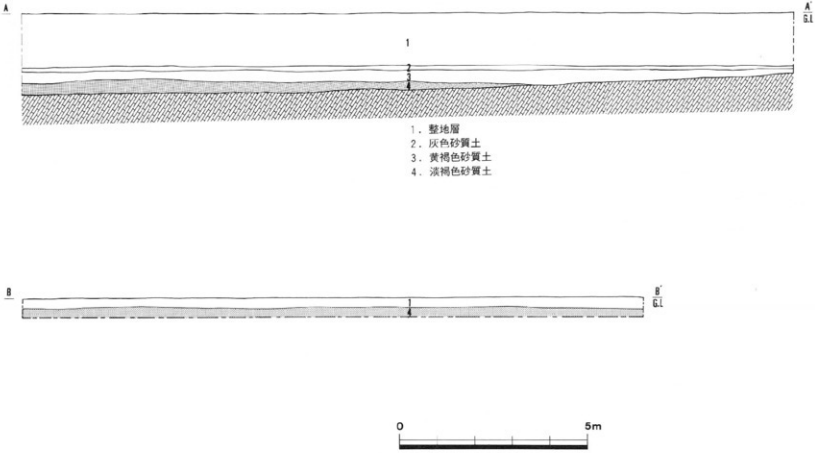
調査期間は平成８年５月21日から同年５月24日までである。

(1) 遺構と層序

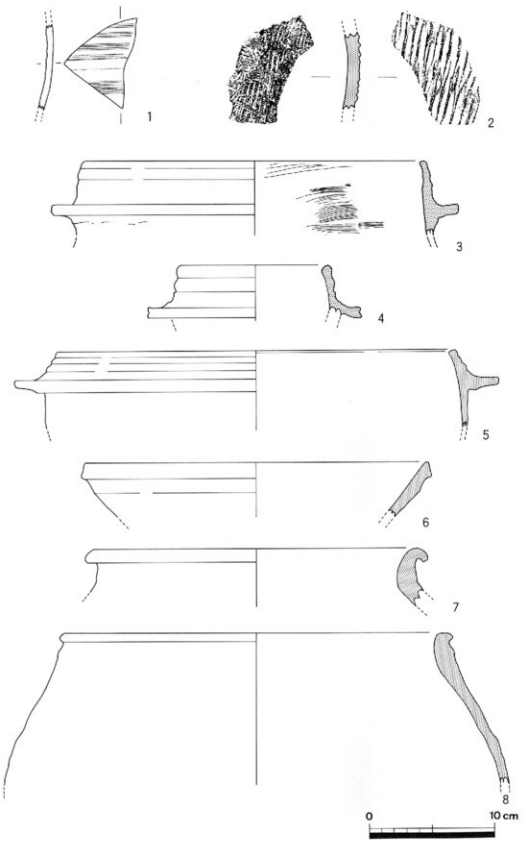
第15図のように、用地西側の崖上端付近で南北20.5m・東西1.0mの第１トレンチを設定し、用地東側で南北16.5m・東西1.0mの第２トレンチを設定して土層断面観察と遺構検出に努めた。第１トレンチでは、地表下1.4mまで整地層がつづく。崖下の宅地造成時か、もしくは当該地の駐車場造成時の盛土と思われる。その下層には、灰色砂質土・黄褐色砂質土・淡褐色砂質土があり、地表下1.6m～2.1mでようやく地山面があらわれる。地山面には窯体の遺存や赤変筒所などは確認できなかった。また、上層の土層中においても、窯壁片や須恵器片の包含は確認できなかった。



第15図　庄司庵遺跡96—１区調査箇所



第16図　庄司廃遺跡96―1区土層断面図



第17図　庄司廂遺跡96—1区出土遺物(1)

第２トレンチでは、整地層は地表下30cmまで終わり、その直下に淡褐色砂質土層が20cm以上の厚みで堆積する。建設が予定されている住宅の基礎深度が地表下39cmまでにとどまるため、これ以上の深さを掘削することができなかった。地山面までの深さを確認できなかったことは残念である。

第２トレンチの淡褐色砂質土中からは若干の遺物が出土した。詳細は次項にて述べるが、概ね鎌倉時代後期～室町時代の遺物の包含が確認できる。

「庄司庵」に関連する可能性がある遺構が、当調査区近辺で遺存している可能性は極めて高い。当該地区周辺における開発が今後おこなわれる場合は十分な遺跡所在確認調査が必要とされよう。

(2) 遺　　物

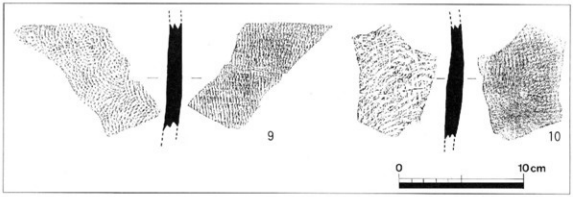
１は産地不詳・器種不明の陶器。壺か。２は堺産の甕。

３は土師質羽釜。口径27.2cm。口縁部はほぼ直立し、鍔は水平にのびる。菅原正明氏の分類による和泉Ｄ２型に属する。14世紀後半の所産か。４も土師質羽釜。３と同じく14世紀後半のものか。５は瓦質の羽釜。口径32.0cm。口縁部は内傾し、鍔は水平にのびる。菅原氏の分類によれば和泉Ｄ１型に属し、時期的には３・４にやや先行すると思われる。13世紀の所産か。６は瓦質のねり鉢。摩滅は著しく産地などは不詳である。７は土師質羽釜。菅原氏の分類による和泉Ｂ型に属する。口縁部が外側に反りかえる。13世紀から14世紀にかけての所産。８は瓦質の甕。産地不詳。９・10は須恵器甕の破片。ともに内面のスリケシはなされておらず、この付近に所在したと考えられる須恵器窯跡（『狭山町史』記載の45号窯・46号窯か）の須恵器が混入したものと考えられる。

本調査区の遺物は概ね13世紀から14世紀にかけてのものが中心であり、中世の狭山地域を考える上で貴重な成果といえる。ただ羽釜類が中心で、瓦器碗の出土がみられないことは、遺跡の性格を考える上で一つの特徴といえよう。

註記

1）上田宏範・豊田兼典・橋上猛雄『狭山の地名五十話』大阪狭山市役所、1992年



第18図　庄司庵遺跡96－１区出土遺物(2)

報告書抄録

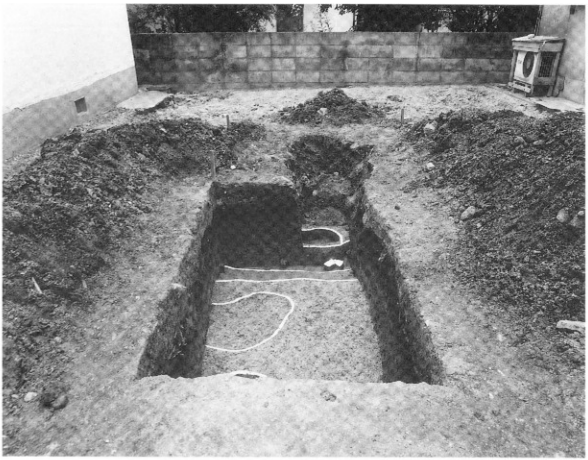
ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ7
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書7
副書名	
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書
シリーズ番号	15
編著者名	市川秀之・植田隆司
編集機関	大阪狭山市教育委員会
所在地	〒589　大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384－1　TEL.0723-66-0011
発行年月日	西暦　1997年　3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さやまはんじょうあと 狭山藩 じんやあと 陣屋跡	おおさかふおおさかさやまし 大阪府大阪狭山 市　狭山	27231	—	34度 30分 15秒	135度 33分 30秒	96—2区 19960918～ 19960930 96—3区 19961014～ 19961030 96—4区 19970121～ 19970129	7 21 8	個人住宅建設に伴う事前調査
しょうこあん 庄司庵 いせき 遺跡	おおさかふおおさかさやまし 大阪府大阪狭山 市　東池尻	27231	—	34度 30分 35秒	135度 33分 30秒	96—1区 19960521～ 19960524	37	個人住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
狭山藩陣遺跡	城館跡	江戸時代	96—2区／溝：1条 柱穴：1 96—3区／溝：2条 土坑：4	96—2区／陶器碗 96—3区／土人形、朝比奈氏の屋敷跡、磁器：碗、陶器：碗・皿・大鉢・深皿・津壺、青磁：皿、摺鉢、焙烙、瓶	なし
庄司庵遺跡	城館跡	鎌倉時代後期～室町時代	96—1区／なし	96—1区／土師質羽釜、瓦質羽釜、瓦質ねり鉢、瓦質甕	狭山荘の荘所と考えうる「庄司庵」に関連する遺物か

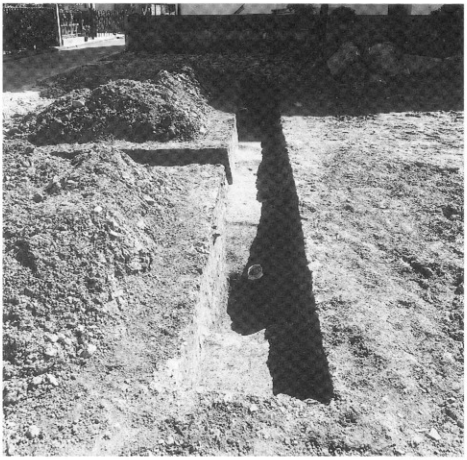
図　　版

図版1　狭山藩陣屋跡96－2区・96－4区

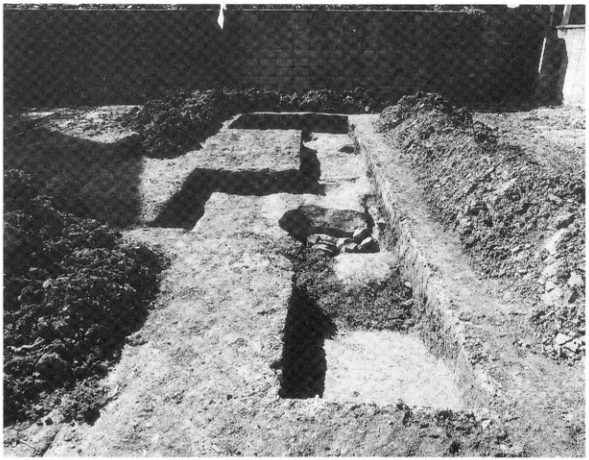


a.96－2区

図版2　狭山藩陣屋跡96－3区



a.第1調査区



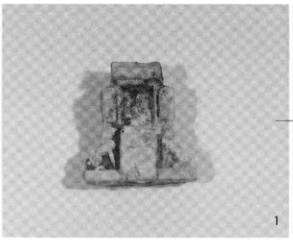
b.第2調査区

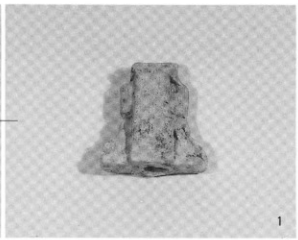
図版3　庄司廃遺跡96－1区

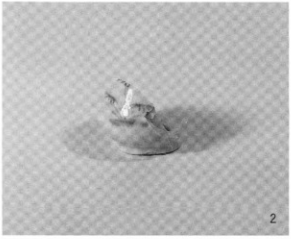
a.第1トレンチ

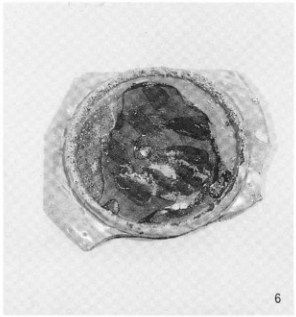
b.第2トレンチ

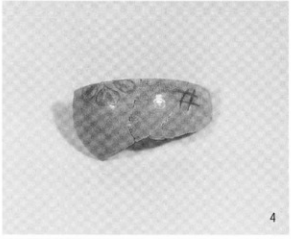
図版4　狭山藩陣屋跡96－3区出土遺物(1)


1

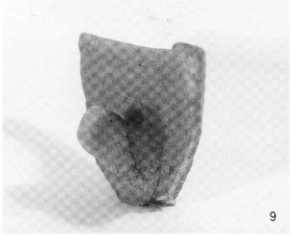

1


2

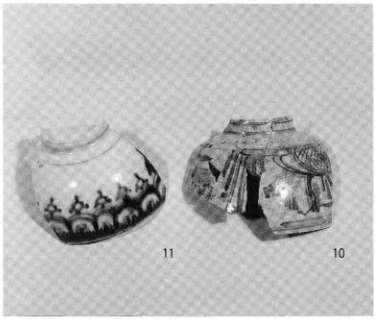

6


4

8


9

図版5　狭山藩陣屋跡96－3区出土遺物(2)

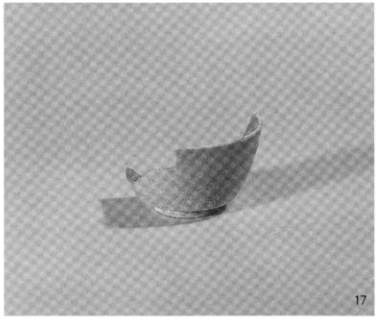

11

10

14

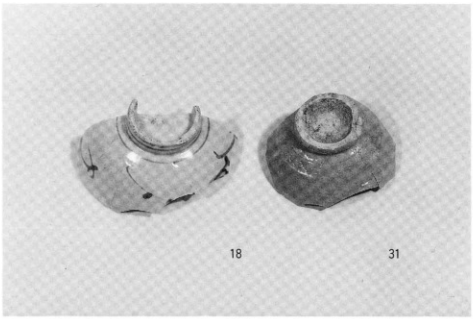
15

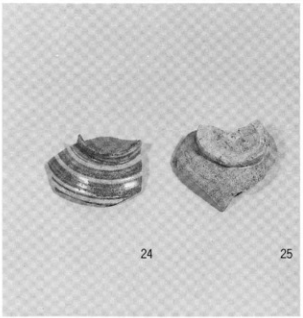
16

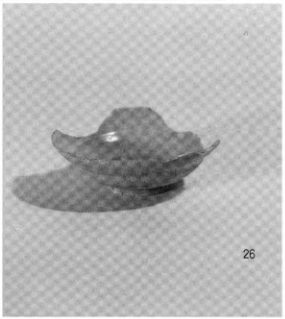

17

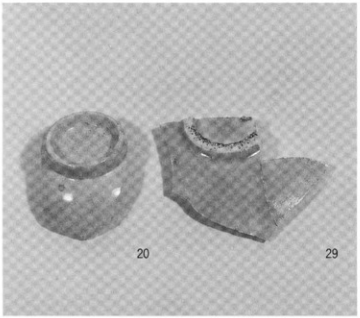
19

図版6　狭山藩陣屋跡96－3区出土遺物(3)



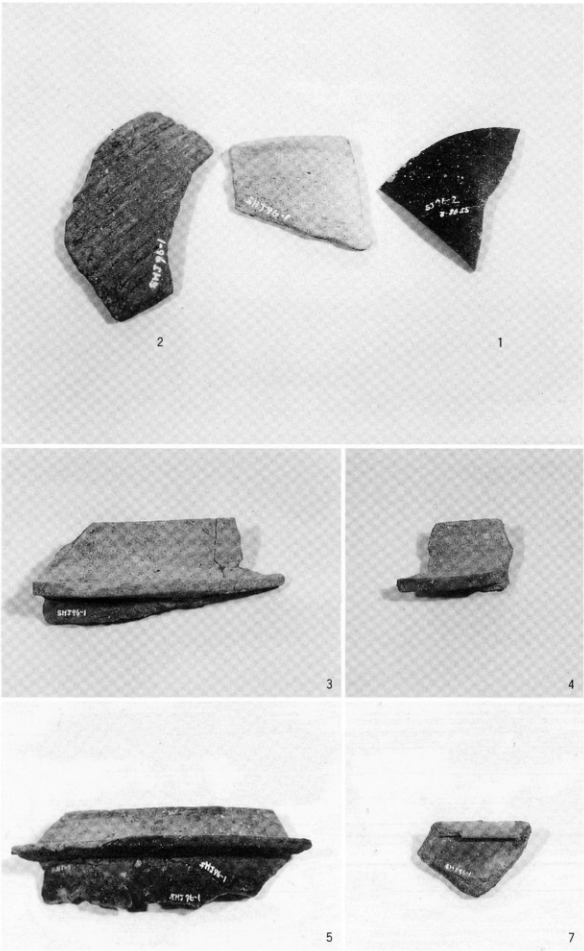






※軒丸瓦は第2調査区溝1埋土中の出土

図版7　庄司庵遺跡96—1区出土遺物



図版8　庄司庵遺跡96—1区・狭山藩陣屋跡96—2区出土遺物

庄司庵遺跡96—1区

狭山藩陣屋跡96—2区

大阪狭山市文化財報告書15

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書７

発行日　平成９年３月31日
発　行　大阪狭山市教育委員会
印　刷　橋本印刷株式会社